

【カンボジアの歴史・政治年表】

- 1世紀頃： 扶南王国（版図：現カンボジア南部からメコンデルタ地域まで）
* インドより、ヒンドゥー教及び大乘仏教伝来
- 6世紀後半： 真臘（現ラオス南部に発祥）の勢力強まる。
- 7世紀： * 版図を現カンボジア中央部からタイ南東部まで拡大。
- 9世紀初頭： アンコール時代
* ジャワによる支配から、ジャヤバルマン2世が解放。
* チャンパ（現ベトナム中部）との抗争。
- 12世紀末～： * ジャヤバルマン7世時代（1181～1218）右抗争に終止符。
13世紀初 ⇒ 最大版図（現タイ東北部、ラオス及びベトナムの大部分（メコンデルタ等）を含む。）

http://sydney.edu.au/arts/timemap/images/content/timemap/examples/2003_03_khmer_animation.swf（インドシナ半島の民族興亡・版図の変化を1年/1秒の動画地図で示す。）

13世紀末以降：後アンコール時代

- * シyam（現タイ）による侵略（小乗仏教伝来）。
- 15世紀半ば： * シyam（アユタヤ王朝）によりアンコール王朝滅亡（転々と遷都）。
- 17世紀： * シyamに対抗するためベトナム（阮朝）に支援を要請。
⇒ ベトナムによる干渉・侵略 ⇒ 以降、右両国に従属・領土浸食
- 1863年： フランスの保護領⇒シyam・ベトナムによる更なる領土侵食を免れる。
- 1887年： 仏領インドシナに編入（ベトナム（メコンデルタ編入）を中心に統治）。
- 1941年： 7月、日本軍カンボジア進駐。10月、ノロドム・シハヌーク王即位。
- 1945年： 3月、日本軍仏印武装解除、シハヌーク国王独立宣言（仏は承認せず）。
8月、フランス勢力復帰
- 1953年： 1月、日・カンボジア外交関係樹立。（54年、対日賠償請求権放棄）
2～5月、国王、独立承認働きかけのため日本等訪問
11月、仏より完全独立。（55年、日カ友好条約署名。）
- 1963年： カンボジア・中国友好不可侵条約締結。
- 1965年： 5月、カンボジア、米国と国交断絶。（3月、米、対ベトナム北爆開始。）
- 1968年： クメール・ルージュ（KR）、反右派・反シハヌークの武装闘争開始。
- 1970年： ロン・ノル将軍ら反中・親米派クーデタ、（シハヌーク、中国に亡命）
クメール共和国樹立 ⇒ KRとの間で内戦
- 1975年： KR、プノンペンを陥落し、民主カンボジア（ポル・ポト）政権樹立。
（KR全土制圧し、約1～200万人以上の自国民死亡。）
- 1979年： ヘン・サムリン等KR内不満分子、ベトナム軍に侵攻を要請し、KR敗走、親ベトナムのヘン・サムリン政権樹立。

以降、同政権とタイ国境地帯拠点の三派連合（KR、王党派、ソン・サン派）の内戦。

- 1991年： パリ和平協定により内戦終結（KRのみ、タイ国境地区で武力抵抗継続）
- 1993年： 国連カンボジア暫定機構（UNTAC）主導による制憲議会（第1回総）選挙

- (選挙結果：全 120 議席中、FU：58、人民党：51)
- ⇒ フンシンペック (FU) 党勝利。ラナリット第一首相 (FU)、フン・セン第二首相 (人民党：旧ヘン・サムリン政権) の 2 人首相制連立政権発足。
新憲法 (王制復活。内閣信任に国民議会の 3 分の 2 の多数を要する。)
- 1997 年： 7 月事変 (首都で両首相陣営武力衝突)。ラナリット第一首相失脚。
- 1998 年： 第 2 回総選挙、第 2 次内閣 (フン・セン単独首相・両党連立政権) 成立。
- 1999 年： 上院新設。ASEAN 加入。
- 2003 年： 第 3 回総選挙
- 2004 年： 第 3 次内閣成立 (四辺形戦略)。シハヌーク退位表明、シハモニ新国王即位。WTO 加入。
- 2005 年： SR、名誉棄損の訴えを受け、議員免責特権一時停止、出国。その後、禁固 1.5 年の有罪判決。
- 2006 年： 2 月、SR、フン・セン首相及びラナリット国会議長宛に謝罪書簡を发出。
⇒ 同首相、SR の恩赦を国王に申請、裁可。⇒ SR、帰国。
SR の提案をフン・セン首相が受け入れ、憲法改正 (内閣信任に要する議決数を国民議会議員総数の 3 分の 2 から単純過半数に減らす変更)。
このため、CPP にとっては、FU との連立不要になるが、連立維持を表明。(しかし、右改正は、FU 弱体化の遠因。)
- 11 月、FU 党分裂し、ラナリット殿下は自党 (NR 党) 旗揚げ。
- 2008 年： 第 4 回総選挙、人民党大勝。第 4 次内閣成立 (第 2 次四辺形戦略)。
プレア・ビヒア遺跡世界遺産登録 (タイとの武力衝突)。
- 2009 年： 9 月、SR 党首、カンボジア・ベトナム国境目印の杭を引抜き、起訴され、仏に出国、11 月、議員免責特権停止。(2011 年 3 月、禁固・罰金刑確定、議席喪失。)
- 2010 年： ラナリット殿下、NR 党首・政界復帰。
- 2012 年： 7 月、SR 党と人権党が合併方針を発表し、救国党 (CNRP) を結成。
10 月、シハヌーク前国王、滞在先の北京で崩御 (89 歳)。
- 2013 年： 7 月、SR、フン・セン首相に尊父逝去に対する弔電。
⇒ 同首相、これに応え国王に SR の恩赦申請、裁可。⇒ SR 帰国。
第 5 回総選挙、野党 CNRP 躍進。
以降、翌年春まで、CNRP、選挙不正糾弾、議会ボイコット、再選挙等の要求を掲げ断続的にデモ。労働組合、賃上げ等要求し、労働争議。
9 月、第 5 次内閣 (初の CPP 単独政権、閣僚入替。第 3 次四辺形戦略)。
与野党は、実務者会合を数次にわたり開催し、現状打開を模索。
- 2014 年： 2 月、両党代表者から構成される合同委員会の設置に合意。
4 月、SR とフン・セン首相間で、議会構成、国家選挙委員会の構成等係争の基本諸点について合意発表 (ケム・ソカ CNRP 副党首は未了承)。
7 月、両党間政治合意成立。議会正常化、労働争議等鎮静化。